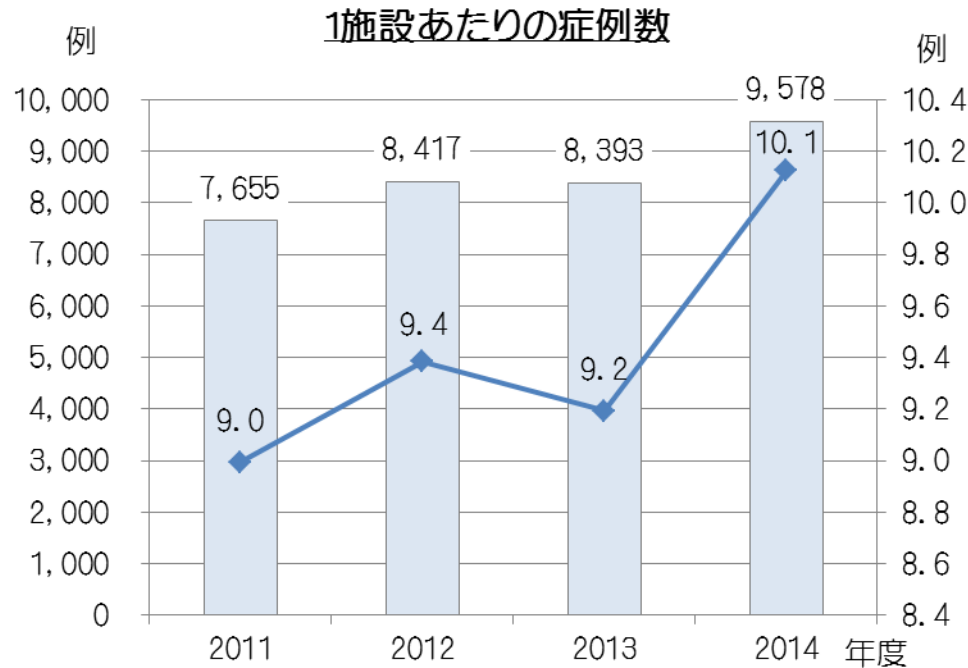


1. 症例数と全症例に占める割合

a) 1施設あたりの症例数

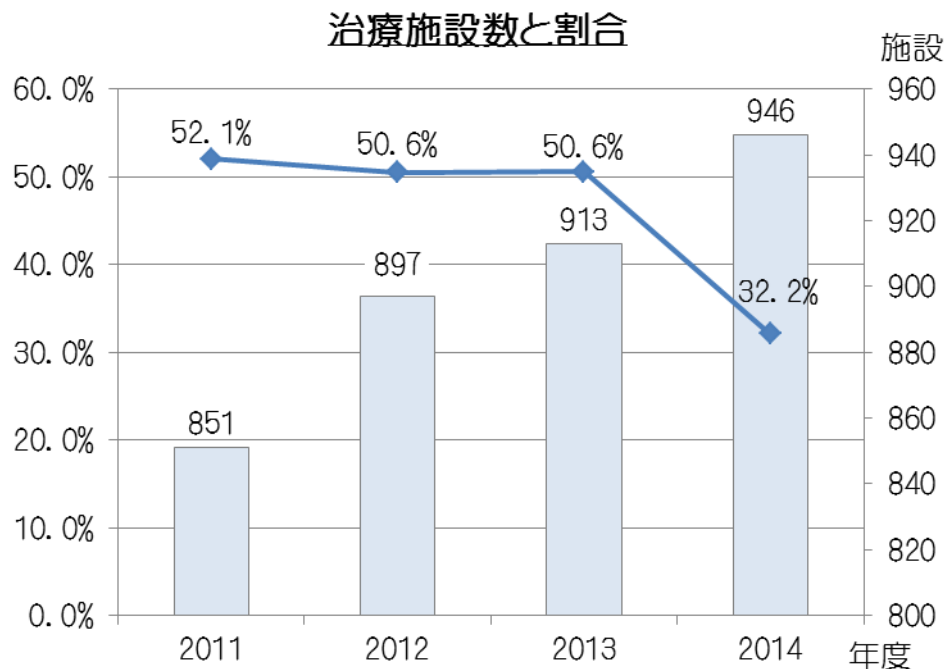


(年度)	2011	2012	2013	2014
症例数	7,655	8,417	8,393	9,578
治療施設数	851	897	913	946
1施設あたりの症例数	9.0	9.4	9.2	10.1

- ✓ 脳腫瘍の1施設あたりの症例数は概ね増加推移
- ✓ 悪性腫瘍全体に占める症例割合も、増加傾向にある

- ◆ 脳腫瘍において化学療法を実施した症例数と1施設あたりの症例数は左図及び表の通り。
- ◆ 症例数をみると、2011年度が7,655例、2012年度が8,417例、2013年度が8,393例、2014年度が9,578例である。
- ◆ また、2014年度の症例数は2011年度比で25.1%増となっている。
- ◆ 1施設あたりの症例数の推移をみると、2011年度が9.0例、2012年度が9.4例、2013年度が9.2例とほぼ横ばいが続いていた。しかし、2014年度は10.1例となり、2011年度比では12.2%増である。

2. 治療施設数と割合

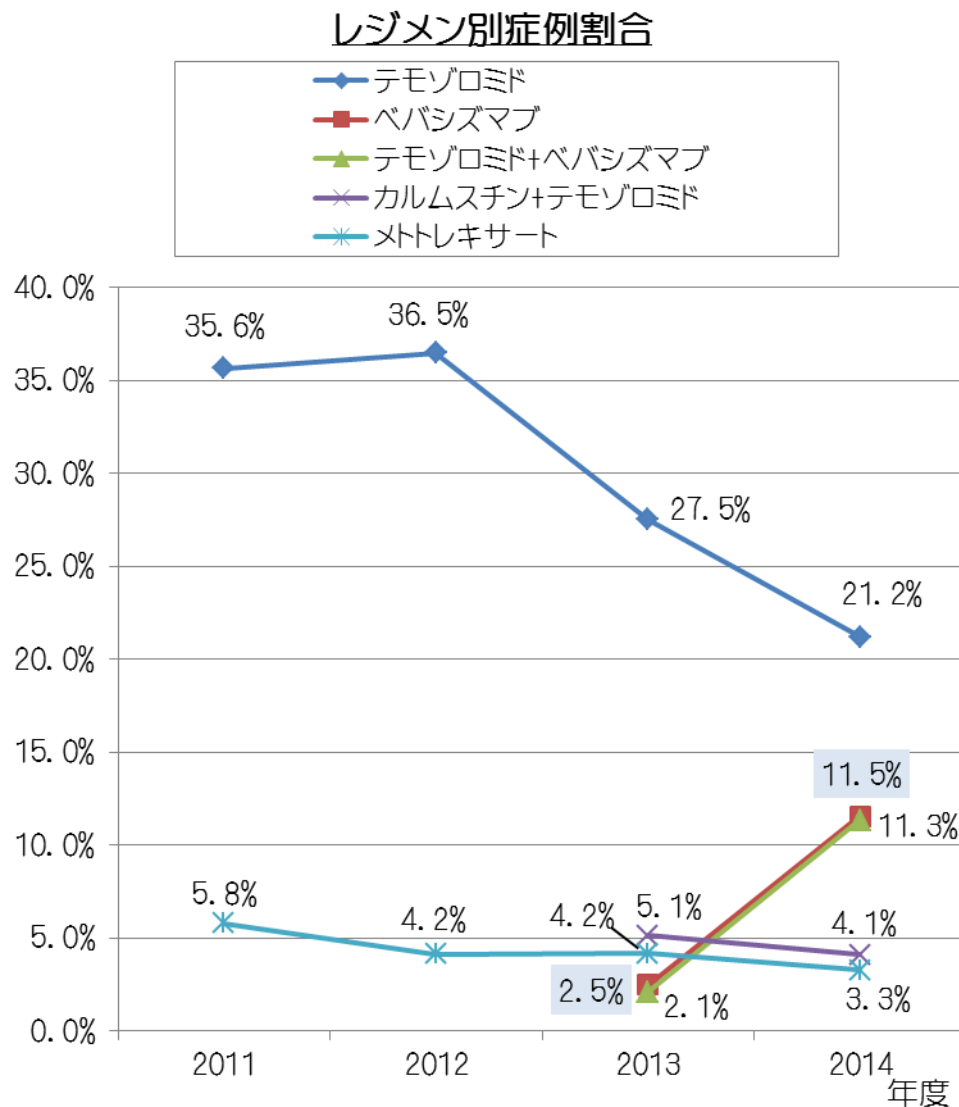


✓ 脳腫瘍の化学療法は、2013年度まで全施設の5割超の施設で実施されている

- ◆ 各年度の調査で集計対象となった全施設のうち、脳腫瘍の化学療法を実施した治療施設の割合は左図及び表の通り。
- ◆ 治療施設数をみると、2011年度が851施設、2012年度が897施設、2013年度が913施設、2014年度が946施設で毎年度増加している。
- ◆ 割合をみると、2011年度が52.1%、2012年度が50.6%、2013年度が50.6%、2014年度が32.2%となっている。2013年度までは、全施設の約半数で脳腫瘍の化学療法が行われていた。

(年度)	2011	2012	2013	2014
治療施設数	851	897	913	946
全施設数	1,634	1,774	1,804	2,942
割合(%)	52.1	50.6	50.6	32.2

3. レジメン別症例割合



✓ レジメン別では、2013年に脳腫瘍の適応を取得した『ベバシズマブ』の症例割合が、単剤・併用ともに拡大

- ◆ 脳腫瘍の化学療法において使用された上位レジメンの症例割合は、左図及び次頁表の通り。
- ◆ 2014年度でみると、化学療法が実施された9,578例のうち、『テモゾロミド』が21.2%、『ベバシズマブ』が11.5%の割合で使用されている。
- ◆ なお、「ベバシズマブ」は2013年に脳腫瘍の適応を取得。この結果、『ベバシズマブ』単剤のレジメンは2013年度比で9.0ポイント増、『テモゾロミド+ベバシズマブ』では9.2ポイント増と大きく増加している。